

本町畜産の防疫対策は万全か

防疫体制の整備を行っている



宮本 昭一 議員

宮崎県での口蹄疫や出水市での鳥インフルエンザの発生など家畜経営者にとっては予断を許さない状況である。本町畜産の防疫体制は万全か。

体制の整備を行っている

町長 家畜伝染病が現在も国内外で発生し、防疫対策の強化が言われており、国や県を中心にその体制の整備等がなされている。本町においても消毒薬の備蓄をはじめ、防疫資材の確保や防疫体制の整備を行っている。消毒薬、

チラシなどの配布により防疫に対する啓発を行っているほか、セリ市前の下見巡回指導や子牛生産検査等で畜舎を巡回時に家畜防疫や衛生管理について指導していく。

消毒噴霧装置の内容は

宮本議員

車両消毒噴霧装置をモデル的に行っているが、設置台数、選定、経費はどのくらいか。

1基が30万円

町長

昨年の口蹄疫の消毒のときに、簡易な車輛消毒装置を開発してもらい、バルク車で飼料を購入されるような大型農家5戸を選定し設置した。経費的には1基が30万程度で

簡易的な設備への補助は

宮本議員

小規模の畜産農家もあり、簡易的なもので消毒を徹底する意味からも車の踏み込み槽の設備に対する補助は考えられないか。

補助の考えはない

町長

規模の小さいものに対する補助制度については考えていない。比較的に経費が安く、小規模の設備については、自己責任のもとでやっていただきたい。

防疫関係の研修開催は

宮本議員

これからの本町畜産農

家の機運と意識を高めるため、町の畜産振興大会を防疫関係の研修を含めた形で開催する考えはないか。

前向きに取組んでいく

町長

昨年は口蹄疫の関係で実施できなかった。行政の責務であり前向きに捉えて、取り組んでいきたい。

優秀牛の導入対策は

宮本議員

育種価の高い遺伝能力を持つ優秀な繁殖素牛の保留・導入をどのような方法で進めるのか。導入事業補助金はどのような内容であるか。

高育種価牛の導入に補助

町長

平成22年度まで実施していた更新対策事業に代わり、より品質の高い高育種価牛の導入または自家保留に対して助成を行

う。1頭につき5万円の助成を行い、100頭を見込んでいる。

自給率向上と経営安定の対策は

宮本議員

農業戸別所得補償制度を活用し、畑作物と米の所得補償交付金制度、水田活用の所得補償交付金制度と合わせて、水田と畑の有効活用による自給率向上と、経営安定をどのように図るのか。

そばの二毛作、畑の輪作体系で有効活用

町長

本町はそば・大豆・菜種が対象作物と考えられるが、出荷することが交付対象条件となっている。早期水田地域においてはそばを二毛作とし、畑作においては輪作体系を考慮し、有効活用を図りながら対象作物の自給率向上と経営安定に努める。

生きがいづくりの対策は

宮本議員

高齢者の健康保持に対する対策は大事なことであり、老人クラブ活動等の生きがいづくりが重要であるが、どのような対策を考えているか。

新たな取り組みを計画

町長

老人クラブ活動等の活性化、健康づくりの推進を目的に、町の老人福祉センター等を活用した新たな通所型の介護予防事業の取り組みを計画している。行政主導になるが会員の健康保持増進及び魅力ある活動の手助けをし、会員数の増、生きがい活動の活性化につながっていくことを期待している。